

寒風の候、先の全国都道府県対抗女子駅伝では、京都は例年にない大雪になり厳しい天候での競技となりました。皆様におかれましては『チームやまぐち』のご声援、応援をいただき誠にありがとうございました。

振り返ってみますと、1 昨年 3 月に女子駅伝強化会議を開き、5 ヶ年(2015 年～ 2019 年)計画で『チームやまぐち』の 8 位入賞をめざす強化目標を策定しました。今年がその 2 年目になりました。具体的な短期強化策として①中高生を主体にした県全体強化練習会を定期的(月 1 回)に実施。②夏季・冬季 2 回の強化合宿、1 月大会前に選手決定のタイムテストの実施。③強化指定選手の選定と優秀選手の推薦。この 3 点をメインに昨年に引き続き強化に取り組んできました。

今年度は強化指定選手を中心にした中高生は一定の伸びはありましたが、大幅な伸長は見ることはありませんでした。特に高校生において高校総体、国体において予選は通過しますが、決勝において敗退するケースが多々ありました。中学生も全日本中学校陸上選手権大会への出場者がわずか 1 名でした。新人の台頭はありましたが、全般的には不振なトラックシーズンになりました。しかし山口県出身の大学生・社会人選手の活躍には、素晴らしいものがありました。オリンピックイヤーの年でしたが、社会人の高島由香選手(資生堂)のリオ・オリンピック 10000m 出場、大学生選手の新井沙紀枝選手(大阪学院大学)、棟久由貴選手(東京農業大学)両名のインカレ 5000m、10000m における上位入賞は特筆できる競技内容でした。いずれも山口県体育協会の優秀選手指定を受けている選手です。

今大会では高島選手の招聘は叶いませんでしたが、中学生 3 名、高校生 5 名、大学生・実業団 5 名による『チームやまぐち』を編成しました。

当初中学生 2 名、高校生 3 名、大学生・実業団 4 名の理想的な選手配置が考えていましたが、大会直前で故障回復のできなかつたエース格の棟久選手を外し、高校生を 1 名追加することになり、チーム編成上大きな変更を余儀なくされました。

大会では『県最高記録更新・15 番以内』を合い言葉にレースに臨みました。急遽重要区間である 1 区、2 区分された竹本選手、森廣選手の負担は大きかったと思います。雪、寒さの悪コンディションもあり前半 20 番台後半、一時 30 位まで後退しましたが 7 区、8 区の中学生・高校生の快走があり 18 位まで順位を上げました。最終区では新井選手が力走し、順位を 1 つ下げましたが 19 位でゴールインし 10 番台を死守することができました。記録は昨年樹立した県記録更新とはなりません

たが、悪コンディションを考慮すると2時間22分26秒で走り切り現段階のチーム力では順当なタイム、順位であったと思います。

前年より順位、タイムともに下回る結果になりましたが、『今大会を個人、チームの課題の洗い出し、次回飛躍へのステップにしよう』という課題は鮮明にすることができました。

大会終了後『チームやまぐち』を監督・コーチ・スタッフ共々、近い将来8位以内入賞させることが肌で感じられ、その根拠を洗い出すことができました。

- ① 山口県出身者（実業団・大学選手）の競技力が近年大幅に向上しています。
- ② ジュニア層の強化は最大の課題です。特に高校生の競技力の強化、競技意識の高揚は、長く競技に取り組める競技者育成に大きな力となります。
- ③ 2年目を迎えた定期強化練習会、年2回実施している合宿の充実は『チームやまぐち』の競技力の向上と連帯感を醸成していくことに重要な役割を果たしています。またこれら機会を指導者養成の場として活用したいと考えています。私たち陸上山口の大先輩である故貞永信義さんが以前、私に諭された言葉があります。『山村さん今日できんことは明日もできいんね』まさにその通りです。日々の地道な実践、努力の積み重ねこそが成果を表します。それを心に銘じさせる大会であったと感じています。

今回、4回目の県チーム監督という大役を微力ながら務めさせていただきましたが、スタッフ、選手一同周囲の方々の温かい励ましや郷土の期待を肌で感じ取ることができました。

『チームやまぐち』は今後も山口県出身者（オール山口）のみのチーム編成になります。有力なふるさと選手、大学生選手の招聘は、『チームやまぐち』のチーム編成上不可欠な課題です。また中高生を中心にしたジュニア層のより高い競技水準を求めることは重要課題です。

この度の大会で経験したことは『チームやまぐち』8位入賞目標の布石となると考えています。今後ともより一層選手強化に努めてまいりたいと思います。ご理解、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

平成29年1月25日

第35回皇后杯全国都道府県対抗  
女子駅伝大会 山口県女子選手団  
監督 山村 進

## 【選手よりの感想をいくつか紹介します】

天満屋陸上競技部

**藤田友里恵** 選手（ふるさと選手 主将・4区・） より

今回のレースは直前までうまく調整できず、不安のある中でのレースとなりました。その中でも京都入りしてからはきちんと気持ちを切り替えて臨むことができました。一番年が上である私をもっとチームを引っ張っていけるような走りをするしなければならない立場にあったにもかかわらず、下の選手に負担をかけてしまって申し訳ない気持ちです。しかしチーム全体としてもベストの状態ではなかった中で今回の結果は必ず次に繋がるものになったと思います。私自身、この大会は中学生の時から出場させてもらっていて、一番好きな大会もあり、山口県チームで過ごすことで原点に戻り、さらに走ることの楽しさ、もっと上を目指そうとする思いが生まれてきました。来年も戻って来られるように更に力をつけて行きたいと思います。

大阪学院大学陸上競技部

**新井沙紀枝** 選手（9区）より

お疲れさまでした。寒い京都でしたが、課題も見つけられ、達成感を味わえました。今回で4回目の都道府県対抗女子駅伝出場になりました。結果は区間30位とチームにあまり貢献できませんでしたが、よい雰囲気の中でチーム山口一丸となってレースに臨めたことは良い経験になりました。来年も山口県代表として走らせてもらえるように基礎基本を大事にして走り込み、成長していけるように努力していきます。

西京高等学校陸上競技部

**西本 菜津** 選手（7区）より

駅伝の経験を重ねるごとに、タスキの受け取りもうまくなり今回も萌恵先輩に声をかけてタスキをもらい、走り出すことができました。私は最近調子がよくなくて自信を無くしていましたが、山村監督からステップアップできるようにと7区を任せていただき、その期待に応えようと思って走り出しました。最初から焦ることなく前しか見てませんでした。後ろの走者がついてきていることも分かりましたが、気にならず抜かすことだけに集中できていました。中間点では前のグループを追っていました。下りをうまく利用して走れ、抜かす毎に気持ちも上がってゆき自分の好きなレースをすることができました。ラスト500mでまた前の2人に追いつき思った以上にラストスパートがかけられました。もう1人抜かせそうだったのが悔しかったです。この大会で自信を取り戻すことができ嬉しかったです。7区を走らせてもらい感謝しています。

防府市立国府中学校陸上競技部

**市原 沙南** 選手（8区）より

今回の大会は私にとって2回目の大会でした。去年と同じ区間でしたので、あまり緊張せず、リラックスして走れました。4人を抜かすことができましたが、去年と変わらないタイムだったので悔しかったです。でも雪の中を走るのも初めてでしたし、いろいろな経験をすることができました。4月から高校生になりますので、この駅伝で学んだことを生かして、これからも全国で活躍できる選手になりたいです。